

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
11001	X-01/21-A-1-110014				基礎	選択	1年
授業科目	担当教員						
文化人類学	佐藤 若菜	2	前期	【1年次生】国際学部国際文化学科 【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース 【2年次生以上】国際学部国際文化学科 【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1年次生】経営情報学部経営学科 【1年次生】経営情報学部情報システム学科 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎 基礎 基礎 基礎 × × 基礎	選択 選択 選択 選択 × × 選択	1年 1年 1年 1年 × × 1年 1年

授業目的

自分たちにとって当たり前のことが必ずしもすべての人にとって当たり前ではないということを理解するのは決して容易ではありません。本講義では、人類学的なものの見方の中心にある「自分たちにとって当たり前の前提を相対化すること」を目指します。ここからグローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向き合う実践的な態度を獲得することを目指します。

各回毎の授業内容

第1回

【授】ガイダンス
【前・後】講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第2回

【授】文化人類学について
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第3回

【授】文化人類学における<文化>とは
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第4回

【授】「自然」な見方を問う
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第5回

【授】男らしさ／女らしさは誰が決めるのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第6回

【授】血のつながりは親子のきずなの基盤となる？(1)
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第7回

【授】血のつながりは親子のきずなの基盤となる？(2)
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第8回

【授】どこで子供が終わり大人が始まるのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第9回

【授】なぜ死は恐ろしいのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第10回

【授】なぜ「きたなさ」を理由に排除されるのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第11回

【授】なぜ共同体には暴力が生じるのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第12回

【授】贈りものに宿るものとは？(1)
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第13回

【授】贈りものに宿るものとは？(2)
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第14回

【授】何が個性をかたちづくるのか？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第15回

【授】歴史的事実とは何か？
【前・後】事前に、関連資料を調べる。講義内容を復習し、関連資料を調べる。予習復習に4時間。

第16回

【授】レポート
【前・後】これまでの総復習を行い、関心をもったテーマについて関連資料を調べ、レポートを執筆する。予習復習に4時間。

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							30
宿題・授業外レポート							50
授業態度・授業への参加							20
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

レポートとコメントペーパーにより評価する。毎回、授業の最後にコメントペーパーを配布・回収し、次の授業の冒頭で質問等に答える。

教科書参考書

『人類学のコモンセンス：文化人類学入門』（浜本満・浜本まり子共編、学術図書出版社）、『人類学的思考の歴史』（竹沢尚一郎、世界思想社）、『文化人類学』（松村圭一郎、人文書院）、『文化人類学を学ぶ人のために』（米山俊直・谷泰編、世界思想社）、『よくわかる文化人類学』（綾部恒雄・桑山敬己編、ミネルヴァ書房）、『ようこそ文化人類学へ』（川口幸大、昭和堂）、『はじめて学ぶ文化人類学』（岸上伸啓、ミネルヴァ書房）、『文化人類学群像』（綾部恒雄編著、アカデミア出版社）、『現代文化人類学のエッセンス』（蒲生正男、ペリカン社）、『現代文化人類学入門』（フィリップス・ボック、講談社）、『現代人類学を学ぶ人のために』（米山俊直編、世界思想社）

受講に当たっての留意事項

特になし

学習到達目標

既存の概念を相対化することから、自分たちとは違った考え方や行動様式の持ち主を理解する術を身につける。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習